

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 3 区分
 【発行日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【公開番号】特開 2000-90179 (P2000-90179A)
 【公開日】平成 12 年 3 月 31 日 (2000.3.31)
 【出願番号】特願 平 10-260064
 【国際特許分類第 7 版】

G 0 6 F 19/00

A 6 1 B 5/22

A 6 3 B 69/00

【F I】

G 0 6 F 15/42 A

A 6 1 B 5/22 B

A 6 3 B 69/00 C

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 8 月 22 日 (2005.8.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

このようにすれば、同一被検者における過去の測定結果との比較や、異なる被検者間の測定結果との比較などを正確かつ容易に行える。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

このようにすれば、グループ単位での比較や、グループにおける被検者間の比較などを正確かつ容易に行える。たとえば、自分を含む複数の選手の中心値を、一つのグラフとして一度に表示させることにより、そのグラフに基づいて、自分がこの選手群の中でどの辺に位置するのかの判断や、自分は A 選手よりも下だが B 選手よりは上だ、などの確認ができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

インストールの終了後、持久力評価支援プログラムを起動させると、表示装置 8 の表示画面上に図 2 に示すようなデータ入力画面が表示され、操作者による操作装置 9 の操作に応じて、個人情報の登録、プロトコルすなわち測定計画の作成、およびデータ解析などを行うことができる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

次に、プロトコルの作成について説明する。プロトコルの作成は、自動作成モード、テンプレート利用モード、および手動設定モードのうちのいずれかを任意に選択して作成できる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

一方、選手の競技種目が球技である場合、操作者が操作装置9を用いて、12分間走、3km走、あるいは1.5km走のうちから1つをチェックすることにより選択する。これは、球技の場合には専門種目の競技距離というものがないため、血中乳酸値の測定のために行う運動を決定する必要があるからである。12分間走を選択した場合、操作者が操作装置9を用いて、最長距離記入欄42に選手の12分間走の最近の自己最長距離を記入する。3km走を選択した場合、操作者が操作装置9を用いて、ベストタイム記入欄43に選手の3km走の最近の自己ベストタイムを記入する。1.5km走を選択した場合、操作者が操作装置9を用いて、ベストタイム記入欄44に選手の1.5km走の最近の自己ベストタイムを記入する。測定回数記入欄39および適応欄41は、トラック競技あるいは競泳の場合と同様である。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0044】

テンプレートを利用するモードの場合、操作者が操作装置9を用いて、図2に示す画面から図10に示すようなテンプレート選択画面を呼び出し、テンプレート名選択欄50から所望のテンプレートを選択する。テンプレート名選択欄50には、頻繁に使用するプロトコルがテンプレートとして登録されているテンプレートの名称が表示されるので、そのうちのいずれか1つを選択すればよい。これにより、選択されたテンプレート名に対応する定型プロトコルが、図11に示すようにデータ表示・記入欄47に表示されるので、必要に応じて操作者が編集してプロトコルを決定する。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

手動設定モードの場合、図12に示すように、操作者が操作装置9を用いて、データ表示・記入欄47に設定距離と各回の目標タイムとを記入する。これにより、各回のラップタイムがCPU1により演算され、データ表示・記入欄47に表示される。手動設定モードにおける別のプロトコル作成方法として、測定日記入欄48に表示される過去の測定日を選択することにより、その日の測定に用いたプロトコルを呼び出して、それを必要に応じて編集することもできる。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0050

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 0 】

測定結果の入力が完了すると、データ解析のための各種設定操作を行うことにより、解析結果のグラフや数表が表示される。すなわち、操作者が操作装置 9 を用いて、図 1 6 に示すような設定画面を表示装置 8 の表示画面上に表示させ、グラフ形式選択欄 5 1 をチェックして、単一グラフ、比較グラフ、時系列グラフ、および団体グラフのうちのいずれかを選択する。さらに、操作者が操作装置 9 を用いて、乳酸値解析方法選択欄 5 2 を操作して血中乳酸値の解析方法を選択し、心拍数解析方法選択欄 5 3 を操作して心拍数の解析方法を選択し、複数の検出ポイント欄 5 4 a , 5 4 b に必要に応じて検出ポイントを記入する。乳酸値解析方法選択欄 5 2 あるいは心拍数解析方法選択欄 5 3 の解析方法としては、たとえば 2 次曲線、単屈曲、二重屈曲、折れ線などを選択することができ、それに応じたグラフが生成される。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 0】

テンプレート名	形式名称
京都XXXXセンター	フィールド(タイム)
大阪△△△大学	フィールド(距離)
名古屋□□□クラブ	トレッドミル

読み込み やめる

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 16】

51

55

53

54b

52

54a

57

56

グラフ形式

○ 単一グラフ ○ 比較グラフ ○ 時系列グラフ ○ 団体グラフ

データ選択

☒ 心拍数 解析方法

BASIC解析法

検出ポイント

No. 1 bpm

No. 2 bpm

No. 3 bpm

No. 4 bpm

No. 5 bpm

☒ 乳酸値 解析方法

2重屈曲法1

検出ポイント

No. 1 2.0 mmol/l

No. 2 4.0 mmol/l

No. 3 6.0 mmol/l

No. 4 mmol/l

No. 5 mmol/l

☐ 主観強度

解析

やめる